

式 辞

明るい空気に満ちあふれ、あらゆる生き物の息吹が感じられる今日の良き日、奈良県教育委員会 吉田 育弘 教育長、榛生昇陽高等学校 育友会長 前川 真吾 様をはじめ、多数の保護者の皆様方のご臨席を賜りここに、第1回奈良県立宇陀高等学校 入学式を挙行できますことは、本校職員にとりましてこの上ない喜びであり、感謝に堪えません。ご列席頂きました皆様方に、高席からではございますが、心より御礼申し上げます。

只今、入学を許可いたしました宇陀高校一三〇名と専攻科八名併せて、一三八名の皆さん、「ご入学おめでとう」。

本校は、本年四月に榛生昇陽高校と大宇陀高校が統合し、両校の特色と魅力を併せ持つ高校として開校いたしました。

本校の歴史を紐解けば、共に大正十二年開校の旧制宇陀高校と旧制宇陀高等女学校がおよそ百年の歴史を経て一つの学校となる県内でも指折りの歴史と伝統を誇る学校であることも知っておいていただきたいと思います。さらに、昨年度、榛生昇陽高等学校に開設した専攻科も引き継ぎ、今年度も、二年間で介護福祉士の国家試験合格を目指す留学生を受け入れております。

本校は、「いのちを大切に作る心と未来を切り拓く力を育み、自信と誇りを持って地域に貢献する生徒を育成する」という 学校目標を定めて、取り組んでいきます。

特に、「未来を切り拓く」ということですが、これには、3つのチャレンジが込められています。

一つ目は、新たな自分にチャレンジするということです。これは、高校生になり、多くの人と出会い、様々な人々の 生き方を知り、自分に照らし合わせ、自分と どう違うのか？ 自分に何が不足しているのかを見つけ、課題を克服する努力を続けるということです。

二つ目は、新たな人間関係を広げるということです。生徒一人一人が尊重され、互いに認め合い、地域との様々な交流や専攻科の留学生との交流を通して、世代や文化を超えて人間関係を広げるということです。

三つ目は、新たな社会にチャレンジするということです。例えば、ここ2年間は、学校現場においても、新型コロナウイルス感染症防止のために急速にICTの活用が進んだという側面があります。こうした社会の変化に主体的に対応する力を身につけるということです。

そのために、学習面においては、本校では皆さんの力を最大限に伸ばすためのカリキュラムを準備しています。できるだけ早く将来の目標を設定し、地道に努力する姿勢を身につけてください。

生活面においては、先ほども世代を超えて地域と交流をするといいましたが、皆さんは、しっかりと挨拶ができますか？時間やルールを守って行動できますか？言葉遣い等の礼儀作法はどうですか？本年四月から成人年齢が十八歳となり、高校卒業を待たずに成人となる人が多く出てきます。高校時代に基本的なマナーをしっかりと身につけてください。

そして、本校には、全国トップクラスの成績を上げている運動部があります。地域に貢献している個性豊かな文化部もあります。生徒の自主性を大切にした学校行事も行っています。積極的に部活動や学校行事に参加し、先輩や同級生と切磋琢磨することによって、簡単にあきらめない心、他人を思いやる心、不正を許さない心などを養ってください。

これからの高校生活で、若さゆえにチャレンジをして失敗することもあると思います。しかし、失敗を糧にして、前に進むことを忘れなければ、より成長していけるはずです。先生方も、皆さんの目標を実現するために、とことん付き合ってくれる方ばかりですので、先生を信じて、しっかり頑張ってください。

最後になりましたが、本日ご列席いただきました保護者の皆様、お子様方のご入学、本当におめでとうございます。

今まで大切に育まれたお子様を、本日よりお預かりすることになりました。私ども教職員が一丸となって、大切なお子様の成長に向けて、全力を注いで参る所存でございます。

お子様が、健やかに成長し、目指す進路を実現させるためには、学校と家庭とが車の両輪となって連携を密にし、ともに取り組んでいくことが何より大切なことと考えております。保護者の皆様におかれましては、お子様の普段の生活や学校での様子に心配なことがあれば、遠慮なく担任にご相談いただければと思います。本校教育へのご理解とご協力の程をお願い申しあげ、本日のお祝いの言葉とさせていただきます。

では、新入生の皆さんにとって、この宇陀高等学校で過ごす日々が、これからの長い人生の中で、光り輝く三年間あるいは二年間となることを期待して、式辞といたします。

令和四年四月十一日

奈良県立宇陀高等学校長 中川 さやと